

L'OCCITANE
EN PROVENCE

Melvita

SUSTAINABILITY

NEWSLETTER

1

2026 / Vol.7



温もりでつながる希望の輪



支えることは、未来を灯すこと

秋が深まる季節、ロクシタンは街に彩りを添えるように美化活動を行い、清々しい環境づくりに貢献しました。そしてホリデーシーズンには、製品寄贈を通じて多様なコミュニティに温もりを届け、心をつなぐ支援を実現しました。自然と人、そして社会への優しさを重ねるこの取り組みは、ロクシタンが大切にしている想いを象徴しています。今号は、その取り組みの一部となる2025年10月から12月までに実施したCSR活動について掲載をいたします。





ゴミの流出を街から防ぐ

街の美化活動プロジェクト・LEAF in 大阪・高松



街をきれいに、心をつなぐ 大阪・高松でのクリーンアップ活動レポート



ロクシタンとメルヴィータは、製品を通じて自然の恵みを届けるだけでなく、地域社会や環境への責任を果たすことを大切にしています。その一環として、私たちは全国各地で街の美化活動(LEAF)を実施しています。今回は、大阪と高松で行われた取り組みをご紹介します。



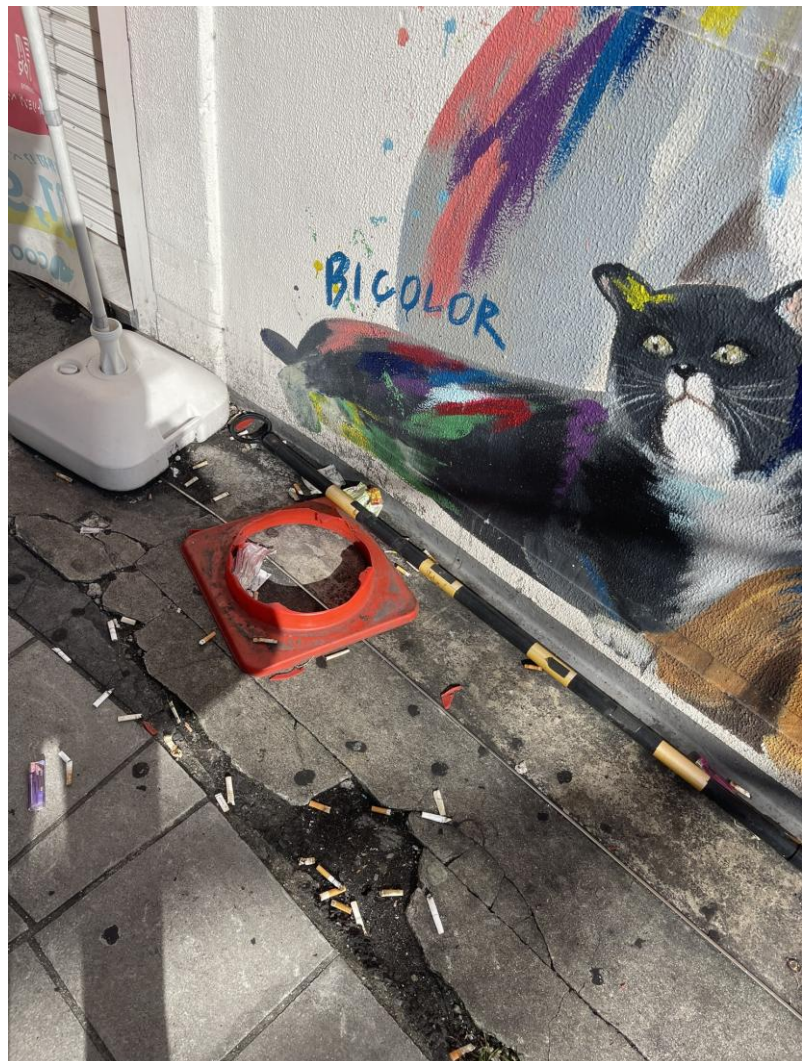


オフィス、店舗スタッフが一丸となつての取り組んだ

大阪 - 天王寺の街をきれいに

10月某日、大阪ではオフィススタッフと店舗スタッフ、総勢54名が集まり、天王寺エリアで清掃活動を行いました。

天王寺は観光やショッピングで多くの人
が訪れるエリアですが、歩道や植え込み
にはタバコの吸い殻が目立ちました。実
際、回収したゴミの中で最も多かったの
が吸い殻です。街の美しさを損なうだけ
でなく、環境への悪影響も大きいことを
改めて実感しました。



タバコの吸い殻が目立つ街角

参加者はロクシタンの鮮やかな黄色いビブスを着用し、ゴミ袋とトングを手に清掃を開始。ビブスを身につけることで、活動を見守る街の人々にも「ロクシタン、メルヴィータはサステナビリティに真剣に取り組んでいる」というメッセージを自然に伝えることができました。実際に「ありがとうございます」「きれいになりますね」と声をかけてくださる方も多く、スタッフにとっても大きな励みとなりました。

この活動を通じて、私たちは単にゴミを拾うだけでなく、地域とのつながりを深め、ブランドの価値を街に広げることができたと感じています。





高松 初めての街で未来につなぐ一歩

秋晴れの11月。四国エリアでの初めてとなる活動拠点は高松でした。こちらはオフィススタッフと店舗スタッフ、計8名が参加しました。清掃場所は、飲み屋街として知られる瓦町や商店街の通り。夜の賑わいを支えるエリアですが、朝の街には空き缶や紙くずなどが散見されました。



驚いたのは、高松市では早朝に多くの企業が自主的に美化活動を行っていたことです。地域全体で「きれいな街を守ろう」という意識が根付いていることに感銘を受けました。今回が初めての高松での取り組みでしたが、ロクシタンとしてもその輪に加わり、街の未来に貢献できたことは大きな意味があります。

参加者からは「街の人々の笑顔が印象的だった」「小さな行動でも地域に良い影響を与えられると実感した」という声が寄せられました。こうした活動は、ブランドの理念である“自然と人を大切にする”という思いを、地域社会に具体的な形で届けるものであると改めて感じる事が出来ました。

見えない世界に光を届ける ロクシタンの約束「視覚障がいへの取り組み」



ロクシタンは、「地球の未来のために事業をプラスの力にしてポジティブな未来へ導く」というB Corpのビジョンに共鳴し、B Corp認証を取得し、人と地球により良い影響を与えるために全力を尽くしています。

自然を育み、自然の神秘を紐解く、心を揺さぶるモノづくり、そして行動を起こすこと。この4つに焦点を当てています。大自然に触れ、素晴らしい景色を見て、芳しい香りを深呼吸する。そんな五感をなによりも大切にするロクシタンでは「予防可能な失明」に対してブランド創設後、ごく早い時期から取り組んできました。1997年には製品への点字表記*を始め、2000年以降は視覚障がい支援活動を目的としたチャリティー製品を発売し、資金を調達しています。2006年以降、グローバル全体で2,211万人にアイケアの提供を果たしています。

*一部製品を除く





筑波大学附属視覚特別支援学校にてハンドクリームを訪問し、寄贈。

全国視覚特別支援学校への寄贈活動

「視覚障がいへの取り組み」として、ロクシタンは全国67校の視覚特別支援学校に在籍する生徒と教職員の皆さまへ、合計7,527個のハンドクリームを寄贈しました。点字を読む指先を乾燥や手荒れから守ることは、学びの継続に直結します。生徒の皆さんには「安心して学んでほしい」という願いを込め、また日々寄り添い導く教職員の方々には感謝の気持ちを込めてお届けしました。この活動は単なる製品提供ではなく、「学びを支える環境づくり」という社会的意義を持つものです。寄贈セレモニーでは笑顔が広がり、支援の輪が確かに広がっていることを実感しました。



(左) ロクシタンの取り組みを紹介する様子 (右) 視覚特別支援学校の生徒の皆様に想いを届ける

公平な社会の実現に向けて

ロクシタンは今後も視覚障がいの方がより暮らしやすい社会の実現に向けたサポートをさらに拡充していきます。点字や学びを支える活動を通じて、より多くの方々に寄り添える取り組みを進めていくことが目標です。

「視覚障がい者のサポート」という約束を胸に、社会に温もりを届ける活動を続けながら、未来に向けて一歩ずつ歩みを進めてまいります。



(上・下)視覚特別支援学校の皆様にロクシタンの取り組み、想いを熱く伝える様子

共に変化を育む - ロクシタンの視覚支援活動



クラウドファンディングから広がる未来への約束

1976年の創業以来、ロクシタンは自然の恵みを大切にしながら、人と地球に寄り添う活動を続けています。「消費を再生に -Turn Consumption into Regeneration-」というブランドビジョンを掲げ、より美しい未来への変化を育んでいます。この理念のもと、ロクシタンの約束のひとつである「視覚障がいへの取り組み」を行うためにクラウドファンディングを立ち上げました。

ロクシタンが取り組む「視覚障がい支援」のサポートをお願いします!



L'OCCITANE
EN PROVENCE

クラウドファンディングのキービジュアル

新たなクラウドファンディングの挑戦

ロクシタンではこれまで釜石市のラベンダー観光農園オープンに向けたクラウドファンディングを3回実施しましたが、今回は、防ぐことのできる視覚障がいを減らす取り組みと視覚障がい者のサポート事業として集まった資金を日本眼科医会と日本点字図書館に寄付するために実施しました。



日本眼科医会

子供～成人に対する眼科検診スクリーニング検査の推進事業

緑内障は現在日本における失明理由の第1位となっており、早期発見が大事な病気です。また、子供の強度近視は将来の緑内障発症を誘発すると言われており、幼児を子供の近視はも早いうちに治療を始めることで進行を抑えることができます。日本眼科医会に資金を寄付することで、2年間で数回の啓蒙イベントを実現し、全国で無料スクリーニング(眼科検査)を実施します。



日本点字図書館

館内におけるコミュニティースペースの拡充

東京にある日本点字図書館は、視覚障がいのある方に点字や朗読CDの貸し出しを行うほか、様々な視覚障がい者向けアイテムの販売を行っており、日々多くの視覚障がい者の方々が来館されます。現状ゆっくりおくつろぎいただけるスペースがないため、コミュニティースペースを作成し、ロクシタン製品のリサイクル回収によって作られた素材を使用した家具を設置し、利用者の方々により充実した時間を過ごしていただけるようにします。



クラウドファンディングの返礼品例

支援額6,712,500円の調達に成功

多くの方々のご支援に支えられ、本プロジェクトを通じて6,712,500円の支援を調達することが出来ました。

未来を照らす検診活動。学びを支える図書館。すべてが「共に変化を育む」というビジョンにつながっています。このクラウドファンディングは、単なる支援ではなく「未来への投資」。ご支援くださった皆様の一歩が、視覚障がい者の明日を変える力となります。

ご支援いただきました支援金による活動報告は今後のサステナビリティ通信にて改めて報告いたします。

製品で想いを届ける

ロクシタンとメルヴィータのホリデーギフト寄贈活動



街がきらびやかな光に包まれるホリデーシーズン。ロクシタン基金では毎年、社会福祉法人 全国社会福祉協議会・全国母子生活支援施設協議会を通じて、母子生活支援施設にホリデーギフトを寄贈しています。今年は全国171施設へ、合計5,968セットをお届けしました。

母子生活支援施設は、さまざまな事情で入所された母子に対し、生活の安定と自立を支援する場所です。施設のスタッフは、子育てや生活に関する相談・援助を行いながら、母親が自立できるようサポートしています。こうした取り組みは、女性が自分らしく生きるための第一歩を後押しするものです。

ロクシタンは「女性の自立を支援」という約束のもと、日本では製品を通じて想いを届ける活動を続けています。ホリデーギフトの寄贈は、単なる贈り物ではなく、母子に笑顔と希望を届けるソーシャルインパクトの創出です。私たちの製品が、困難な状況にある方々に少しでも温もりを感じてもらえるきっかけになればと願っています。

これからもロクシタンは、製品を通じて社会にポジティブな変化をもたらし、女性の自立を応援する活動を広げていきます。



ビーチクリーン部 活動報告



11月、ロクシタンビーチクリーン部は茅ヶ崎の海岸でビーチクリーン活動を実施しました。風は穏やかで、気温も暖かく、まさに海岸清掃には理想的な天候。とても心地よい環境で、自然と触れ合いながら環境保全に取り組むことができました。

今回の活動では、大きな漂流物はほとんど見られませんでした。砂浜には大量のマイクロプラスチックや細かなごみが散在していました。これらは一見目立たないものの、海洋生態系に深刻な影響を与える要因です。さらに、流木などの自然物も多く、海岸の多様性を守るためには、こうした小さな変化にも目を向けることが重要だと改めて感じました。





ビーチクリーンを続ける理由

海洋プラスチック問題は、世界的な課題です。プラスチックは分解されるまでに非常に長い年月を要し、その間に海洋生物が誤食したり、生態系が乱れる原因となります。また直近の研究では毎分40トンものプラスチックが海に流れ出ているといわれています。私たちが定期的にビーチクリーンを行うことで、こうしたリスクを少しずつ減らし、海の健全性を守ることができます。

また、継続することには「意識を広げる」という大きな意味があります。参加者一人ひとりが海岸の現状を目の当たりにすることで、日常生活でのプラスチック削減やリサイクルへの意識が高まります。これは、企業や個人が持続可能な社会を目指すうえで欠かせない第一歩です。

自然との共存を目指して

ビーチクリーン活動を通じて、私たちは「小さな行動が大きな変化を生む」ことを改めて実感しました。今後も定期的なビーチクリーンを続け、地域と連携しながら、より広い範囲で環境保全に貢献していきます。

ゴミの回収量

燃えるゴミ	合計 4.08kg
燃えないゴミ	合計 1.77 kg



日本の気候、揺らぐ未来

最新データで読み解く2025年のリアル



文部科学省と気象庁が共同公表した『日本の気候変動2025』では、大気・陸・海洋に関する観測と将来予測を網羅しています。政策や適応策を支える科学的基盤として、2020年版からの進化に注目が集まっており、最新の分析と予測のサマリーを読み解きます。

キーワードで読む「2025年の日本」

異常気象の頻度が劇増中

極端な大雨

工業化以前に100年に一度だった豪雨が、世界平均気温+2°C時には約2.8回、+4°C時には約5.3回へ増加すると予測。

極端な高温

同じ条件下で、“100年に一度”の猛暑が+2°Cで約67回、+4°Cでは約99回にまで急増する見込。

年平均気温の上昇

1898～2024年における日本の年平均気温は100年あたり約1.40°Cのペースで上昇。これは前回の1.24°C予測から更に加速している。

海洋のSOS：溶存酸素量激減

日本南方の海域では、溶存酸素の長期的な減少が進み、世界平均並みかそれ以上の速度で進行している。

海洋も変革期

海水温：日本近海の平均海面水温が世界平均の2倍以上で上昇中。

海面水位：1980年代以降、日本沿岸で継続的に上昇中。今後もリスクの高まりが予測される。

海洋酸性化：北西太平洋沿岸で進行中。今後もさらなる進行が見込まれている。

降雪・台風・雪国にも変化の兆し

降雪量・積雪量：国内の降雪傾向は減少傾向にあり、今後もさらなる減少が予測されている。

台風・熱帯低気圧：観測では猛烈な台風の増加傾向に言及されているが、確信には至らず。ただし、強度の増加は将来予測で示唆。

高潮・高波：観測上、まだ明確な傾向は見えないものの、将来のリスクは増加すると予測されている。

政策と社会への影響

グローバルな取り組み

気候変動が人為起源であることに揺るぎない科学的証拠がある（IPCC第6次評価報告）。パリ協定では、「 2°C より十分低く、 1.5°C に抑える努力」が全世界の合意となっており、昨今のデータでは 1.5°C 上昇に到達しているとの指摘もある。

国内の取り組み

2030年目標：2013年度比で温室効果ガスを46%削減、さらに50%超を目指す姿勢が明示されている。

カーボンニュートラル：2050年までに実現するとのコミットメントあり。

適応策も継続：気候変動適応法に基づき、地域・事業者にて対策計画を義務付け・推進が行われている。

まとめ

「日本の気候変動2025」は、“異常”から“常態”へと変わる日本の気象風景が浮き彫りになりました。大雨・猛暑・海洋変化…その背景には、私たちの暮らしと直結する変化が進行中です。今、私たちに必要なのは、科学データを踏まえた政策実行と、地域に根ざした生活対応。気候リスクへの備えと未来への責任が、今ほど問われた時期はありません。